第二講　再読文字　／　使役形

一　**再読文字**…最初は返り点を無視して副詞として読み、二度目は返り点に従って助動詞（動詞）として読む。

①　**未**＝未(いま)ダ〜ず／（まだ〜ない）

（例）未レ還(かへラ)。〔未だ還らず。〕（まだ戻ってこない。）

②　**将・(且)**＝将(まさ)・(且(まさ))ニ〜ントす／（〜しようとする・〜しそうだ）

（例）将ニレ食(セント)。〔将に食せんとす。〕（今にも食べようとする。）

＊「将」が再読文字ではないとき＝「はタ」（＝あるいは）や「もっテ」と読む。

③　**当**＝当(まさ)ニ〜ベシ／（当然〜すべきだ・〜しよう）

（例）当レ帰(とつガシム)レ汝。〔当に汝を帰がしむべし。〕（当然お前を嫁がせよう。）

④　**応**＝応(まさ)ニ〜ベシ／（きっと〜しよう・に違いない）

（例）応レ知レ之。〔応に之を知るべし。〕（きっとこれを知っているに違いない。）

⑤ **宜**＝宜(よろ)シク～ベシ／（～するのがよい）

（例）宜レ従二汝ノ所ニ一レ適ク矣。〔宜しく汝の適く所に従ふべし。〕（おまえが行きたいところへ行けばよい。）

＊「宜」が再読文字ではないとき＝「むベナリ」と読み「もっともだ」の意味。

⑥ **須**＝須(すべか)ラク～ベシ／（必ず～する必要がある・しなければならない）

（例）須レ学。〔　　　　　　〕（　　　　　　　　　　）

⑦ **猶・（由）**＝猶(な)・（由(な)）ホ～〔ガ・ノ〕ごとシ／（ちょうど～のようだ・と同じだ）

- V連体形＋ガ（…過ぎたるはなほ及ばざるがごとし）
- 体言ノ（…春の夜の夢のごとし）

（例）今之楽、猶二古之楽一。〔今の楽、猶ほ古の楽のごとし。〕（今の音楽は、ちょうど昔の音楽のようだ。）

＊「猶」が再読文字ではないとき＝「なホ」と読み、「やはり・まだ・いっそう」と訳したり、「抑揚形」の文で使われる。

⑧ **盍**＝盍(なん)ゾ～ざル／（どうして～しないのか・～すればよいではないか）

（例）盍二以テレ疾ヲ辞セ一。〔盍ぞ疾を以て辞せざる。〕（どうして病気を理由にして辞退しないのか。）

問一　次の文を、返り点に従って書き下し文にせよ。

妾ハ宜下シク以テレ身ヲ薦メ(すすメ)二其ノ棺(くわん)槨(かく)ニ一、守中-リ養フ其ノ幼(よう)孤(こ)ヲ上。

注　棺槨…ここでは、棺桶に納められた夫のことを指す。
　　幼孤…幼い遺児。

問二　次の文は「禹は天下に溺(おぼ)るる者有れば、由(な)ほ己(おのれ)之(これ)を溺らすがごとしと思へり」と読む。これに従って、返り点を施せ。

禹 思 天 下 有 溺 者 、由 己 溺 之 也 。

問三　「須」の意味として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

ア　～であろう　　イ　～するだけだ　　ウ　～することが必要だ

問四　「病ミテ且死、…」の傍線部の　A　読み方と　B　解釈として最もふさわしいものを、次の中からそれぞれ選べ。

A　ア　まさにしせんとし　　イ　まさにしすべくして
　　ウ　よろしくしすべくして　　エ　すべからくしすべくして
　　オ　なんぞしせんとし

B　ア　少しの間、死んだようになって　　イ　死んだ方がましだと思って
　　ウ　今や死にそうになって　　エ　必ず殺されると思って
　　オ　それでも生きたいと望んで

問五　「当如此也ト。」の書き下し文として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　当(まさ)に此(か)くの如(ごと)くなるべきなりと。
2　当(あ)たるも如(も)しくは此(こ)れにあらんやと。
3　当(まさ)に此(こ)れに如(し)くものあらんやと。
4　如(ゆ)くに当(あ)たりて此(か)くなるべきなりと。

問六　「盍 試 一 思 之。」のA訓読とB意味について、正しいものを次の中から一つ選べ。

A　訓読

ア　けだし試みに之を一に思ふ
イ　なんぞ試みに一たび之を思はざる
ウ　いはんや一たび之を思ふことを試みんや
エ　まさに一に之を思ふことを試みんとす
オ　あに一を試みて之を思はんや

B　意味

ア　ましてや一度はこのことを考えないことがあろうか
イ　いったい一つのことを試してこのことを考えようか
ウ　これからひたすらこのことを考えるのを試みてみよう
エ　どうしてこのことを一度試みに考えてみないのか
オ　おそらくもっぱらこのことを考えようと試みるであろう

問七　「当(二)為(レ)子沽(一レ)酒。」を書き下し文にせよ。

注　沽…買う。

問八　「甘(かん)茂(ぼう)亡(ゲ)(レ)秦(ヲ)、且之斉、…」の傍線部をひらがなのみの書き下し文にせよ。

注　甘茂…秦の宰相。
斉(せい)…地名。

問九　「不当発悪願。」を漢字ひらがなまじりで書き下せ。

二　使役形

① 基本…助動詞を使ったもの

S　使・令・遣・教・俾（三）　N　V（二）　O（一）

S＝主語
N＝使役の対象。助動詞の**直下**の名詞（人が多い）。
V＝動作
O＝動作の目的

〈読〉＝**SNヲシテ**O{ヲ／ニ}Vしム

＊　**N（助動詞の直下の名詞）には「をして」の送り仮名を必ず送る。**

＊　**V**は**未然形**に活用させる。

〈訳〉＝SはN{に命じて／をつかわして／に／を}O{を／に}Vさせる。

〈例〉王使人求之。（　　　　　　　　）（　　　　　　　　）

＊ SNVOは全てがそろっているとは限らないので、まずSNVOのうちのどれがあるか確認すること。（Vの部分は絶対に省略されない。**↓まずVを探す**。）

〔例題一〕 次の「**使**」以外の各漢字の右横に、文の要素（S、N、V、O）の該当するものを書け。

(1) 王**使**臣書文。

(2) 王**使**臣書。

(3) 王**使**書文。

(4) **使**書。

＊ Vが二つ以上ある場合、使役がどこまでかかるか文脈判断する必要があるので注意！

(例) 王使臣書文読之。

王使二臣書一レ文読レ之。

王使二臣書レ文読一レ之。

② 使役を暗示する動詞を使ったもの

命ジテ
令シテ
召シテ
勧メテ
教ヘテ
遣ハシテ
説キテ
} ～Vシム

禁ジテ
戒メテ
} ～不レVラシム

③ 本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「シム」が付いているときは注意。

問十　「王大(イニ)怒(リ)、使人殺中射之士。」の傍線部を書き下せ。

注　中射之士…宮中宿衛に当たる武官の侍従。

問十一　次の文を、返り点に則して、書き下し文に直せ。

妻使(下)妾挙(二)薬酒(一)進(上)之。

＊進…サ変動詞「進ず」

注　妾…下女。

薬酒…毒薬を入れた酒。

問十二　次の文を「相(しやう)をしてこれを聘(へい)せしむ」と読めるように、返り点を付けよ（送り仮名は不要）。

使相聘焉。

問十三　次の文は「子どもに金を持たせ、つぼをぶら下げて酒屋に行き酒を買ってこさせる」という意味である。これに基づいて返り点を付けよ。ただし送り仮名は付ける必要は無い。

令 孺 子 懐 銭 挈 壺 甕 而 往 酤 。

注　孺子…子ども。
挈…ひっさげる。
壺甕…酒を入れるつぼ。
酤…ここでは「買う」。文脈によって「うる」とも「かう」とも読む。

問十四　「使 公 以 馬 殺 人」をすべてひらがなで書き下しなさい（現代仮名遣いでよい）。

注　公…斉の君主、景公（けいこう）。

問十五　「使二汝 不レ死二於 人 之 手一。」をひらがなのみを用いて書き下せ。

復習問題　第二講　再読文字　／　使役形

① 「唯(た)だ春江の看(み)れども未(いま)だ厭(あ)かざる有り」と読むには、返り点はどのように付けるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　唯　有㆓春　江　看一㆑未㆑厭

イ　唯　有㆓春　江　看　未一㆑厭

ウ　唯　有㆔春　江㆓看　未一㆑厭

エ　唯　有㆔春　江㆓看　未㆒厭

オ　唯　有㆔春　江　看㆓未　厭㆒

② 「将」は再読文字の一つである。次の中から再読文字でないものを一つ選べ。

ア　応　　イ　遂　　ウ　宜　　エ　須

③ 「当㆓相　取㆒也。」は「どうしても（あなたを）つかまえなければならない。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　あひ取るにあたれるなり。　　イ　まさにあひ取るべきなり。

ウ　よろしくあひ取るべきなり。　　エ　まさにあひ取らんとするなり。

オ　よろしくあひ取らんとするなり。

④「将有重賞」をひらがなで書き下した文として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　もちひてしやうをおもんずるあり。
イ　もつてぢゆうしやうあらんとす。
ウ　ひきゐてぢゆうしやうあらんとす。
エ　まさにぢゆうしやうあらんとす。
オ　しやうにしやうをおもんずるあり。

⑤「俾」の送り仮名を含めた読み方として最もふさわしいものを、次の中から選べ。

ア　しめんことを　　イ　られんことを
ウ　ざらんことを　　エ　れんことを

⑥「使二相償レ之」は「相（田叔）の手で銭を弁償させようとした」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　相をしてこれを償ふ。　　イ　相をしてこれを償はしむ。
ウ　相をしてこれを償ふべし。　　エ　相をつかひてこれを償ふ。
オ　相をつかひてこれを償はしむ。　　カ　相をつかひてこれを償ふべし。

【第二講】

一 ⑥〔須らく学ぶべし。〕（学ばなければならない。）

二 ①〔王人をして之を求めしむ。〕（王は人にこれを求めさせる。）

〔模範解答〕

問一 妾は宜しく身を以て其の棺槨に薦め、其の幼孤を守り養ふべし。

問二 禹思(下)天下有(二)溺者(一)、由(中)己溺(上)之也。

問三 ウ

問四 A ア　B ウ

問五 1

問六 A イ　B エ

問七 当に子の為に酒を沽ふべし

問八 まさにせいにゆかんとし、

問九 当に悪願を発すべからず

問十 人をして中射の士を殺さしむ

問十一 妻妾をして薬酒を挙げ（て）之を進ぜしむ

問十二 使(二)相聘(レ)焉。

問十三 令(下)孺子懐(レ)銭挈(二)壺甕(一)而往(上)酤。

問十四 こうをしてうまをもってひとをころさしむ

問十五 なんじ〔ぢ〕をしてひとのてにしせざらしむ

復習問題解答　第二講　再読文字／使役形

〔解説〕

①に関しては、返り点のついている順番で読んでいった場合、読み方が同じになるものを選ぶしかない。再読文字の「未」に気をつけること。

②　イは「つひニ」と読む副詞。

③　訳から、「**当**」は再読文字として、「**まさに～べし**」と読むべきことがわかる。よって、正解はイ。

④　「**将**」は再読文字で「**まさに～んとす**」と読む。よって、正解はエ。「将」は再読文字以外で他の読み方もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えよう。

⑤　「**俾**」は**使役**の助動詞。よって、正解はア。

⑥　訳から、「使」を使役の助動詞「しむ」と読むことがわかる。その下を見て、動詞を探すと「償」が動詞。よって、「使」と「償」の間にある「相」が**使役の対象**で、**送り仮名**は「**をして**」。よって、正解はイ。

〔解答〕

①　イ　②　イ　③　イ　④　エ　⑤　ア　⑥　イ